

2007年5月28日付本紙夕刊で、沖縄語の表記統一委員会（仮称）の設置について提案しました。その後、何度も沖縄へ出掛けて行き、沖縄語が堪能とされる方々にお会いして気付いたことですが、書くことについては、かなり無頓着であることが分かりました。なぜそうなるのかよく分かりませんでした。沖縄語が堪能であると自負していますので、きちんと正確に書くものだと思いますからです。最近やっとこの問題が明確に分かるようになりました。



真正 吉國

論壇

沖縄語独特の発音が正確でなく、曖昧なところがあつて、話している内容を適切に書けないということ。発音があいまいであれば、当然、五十音のどの文字を組み合わせたら

曖昧なしまくとうばの発音

表記コンテストで確立を

よいのか迷っているわけですが、このことを裏付けるものとして、もう一つの問題を見いだすことができました。それは沖縄語辞典を的確に引くことができないということ。現在、沖縄県文化協会が主催して「しまくとうば語やびら大会」が行われ、しまくと

うばの普及促進をされていますが、これと並んで「しまくとうば表記コンテスト」の開催を提案します。

コンテストの方法として、しまくとうば話者の音声（6分～7分程度）をコンテスト応募者に渡します。言文一致を前提として、この音声を文字化させ適切な表記であるかを審査します。

書き方は現在発表されているもの、あるいは新しく作ったものを使います。もちろん、音韻記号等は、しっかりと定義しておく必要があります。このことにより正書法への関心が高まるものと考

えております。そして不完全な書き方は淘汰されていきます。

現在、書き残されている沖縄語の書物を読んでみますと、間違いは多く、とても次世代の若い人たちには沖縄語として読めるものではありません。

琉球新報社が発表した沖縄県民意識調査報告書にあるように、20～30代の約9割が話せないということなので、表記は懇切丁寧に書いて残さなければなりません。
（川崎市、法政大学沖縄文化研究所・国内研究員、75歳）